# たからづかしの家計簿

平成２７年度（２０１５年度）決算概要

Takarazuka City 宝塚市

市の財政状況については「広報たからづか」などでお知らせしていますが、もっと身近にわかりやすく理解してもらうため一般家庭に例えながら解説していきます。

## 予算と決算って？

たからづかしの家計簿では平成２７年度決算を元に市の財政を説明していきます。

まずそもそも「予算・決算」とは、「予算」が使う見込を表すものであるのに対し、「決算」とは予算を上限として市民サービスを行った結果の数字となります。

**一般家庭で例えると、予算は「食費にいくら、次に買う家電にいくら」とあらかじめ計画することで、決算は実際に使ったお金のことをいいます。**

## 市の会計の種類って１つじゃないの？

市の会計は複数に分かれています。１つだけの方がわかりやすいのかもしれませんが、例えば市民の中でも一部の方だけが加入している国民健康保険に関する収入と支出はその他の一般的なお金と分ける必要があるため会計を分けています。

**一般家庭で例えると、生活していくためのお金とその他の目的のお金を別に管理していることと似ています。**

宝塚市の会計について

*市によって一般会計と特別会計の分けかたが違うため、他自治体と比較できるよう全国的に統一の基準で作る仮想の会計として「普通会計」があります。宝塚市では概ね一般会計＋宝塚すみれ墓苑事業費＝普通会計となります。

## いくらぐらいお金の出入りがあったの？

では、次に３つの会計の内、一番代表的な一般会計の決算状況について解説します。**一般家庭でも家計簿をつけるとどんな項目にどれだけお金を使ったのかを客観的に見れるように**、市の決算を見ることで市が過去一年間で、どんな市民サービスにお金を使ったのか、またどんなお金が入ってきたのかがわかります。

さて、本市の決算状況ですが

**入ってきたお金（歳入）744.7億円 － 使ったお金（歳出）734.5億円 ＝10.2億円**

ただし、この10.2億円の中には来年度使うことを約束しているお金（翌年度に繰り越すべき財源）が4.3億円あることから実際の平成２７年度収支は

**10.2億円 － 4.3億円 ＝ 5.9億円**

となり使ったお金より、入ってきたお金の方が5.9億円多かったということになります。

決算規模と決算収支の状況

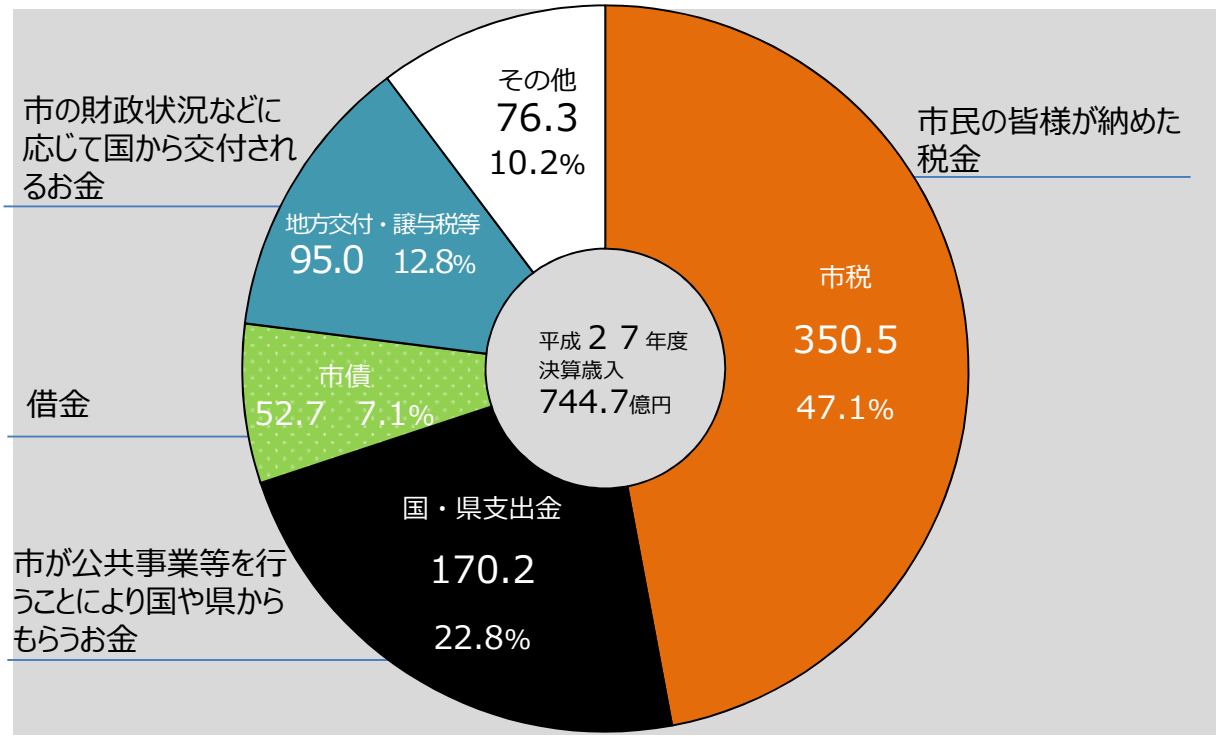
(単位：億円)

| | 歳入決算額<br>a | 歳出決算額<br>b | 形式収支<br>b - a = c | 翌年度に繰り越すべき財源<br>d | 実質収支<br>c - d |
|---|---|---|---|---|---|
| 平成２7年度 | 744.7 | 734.5 | 10.2 | 4.3 | 5.9 |
| 平成２6年度 | 727.5 | 718.3 | 9.2 | 6.2 | 3.0 |
| 増減額 | 17.2 | 16.2 | 1.0 | △ 1.9 | 2.9 |
| 増減率（%） | 2.4 | 2.3 | 11.4 | △ 30.6 | 98.6 |

補足用語説明
○「形式収支」･･･これは入ってきたお金から使ったお金を引いたものです。
**市でも一般家庭でもマイナスになる場合、赤字になっている状態です。**
○「翌年度に繰り越すべき財源」･･･形式収支の中には、その年度中に完了し支払いも終わる予定だったが何らかの理由で未完了となった工事等に対する支払いが含まれています。その未完了分はまだ支払いが終わっていないため財源を翌年度に繰り越すことになります。
**一般家庭では年度単位でお金を考えることが少ないため、イメージしにくいですが、例えば家の補修を頼んでいたが、期限までに間に合わず、それに伴って支払いも遅くなった場合などです。**
○「実質収支」･･･形式収支 － 翌年度に繰り越すべき財源
実質収支はその年度でどれだけお金が増もしくは減となったかを表します。

## 入ってきたお金の内訳は？

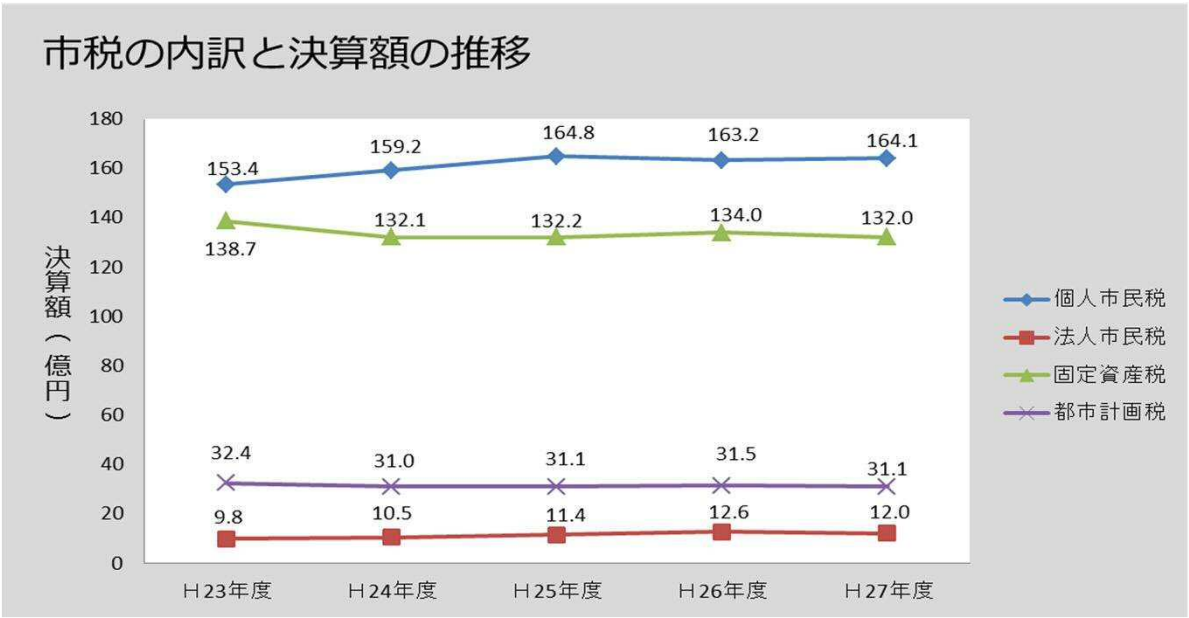
単位：億円




次は入ってきたお金にはどんな種類で、どれぐらいあるかを解説します。

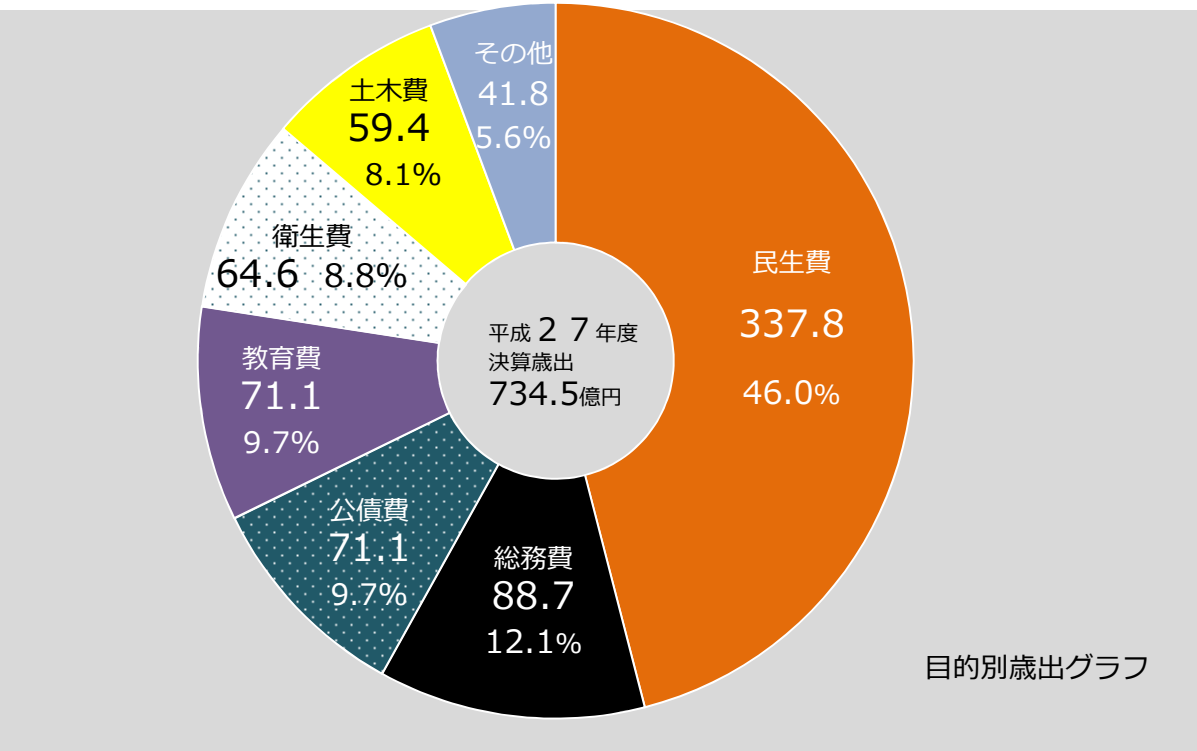
全体としては、地方消費税交付金の増、国・県支出金の増等により前年度から17.2億円増加しています。本市の特徴は市税が歳入の約半分を占めており、安定した税収があるということです。（全国市町村平均の市税割合は32.7%（平成２６決算））

市税の内訳と決算額の推移は次のグラフのとおりです。



## どんな目的にどのぐらいお金を使ったの？

単位：億円




次は使ったお金はどんな目的にどのぐらいお金を使ったのか解説します。

**○○費とありますが、一般家庭で例えると食費、ガソリン代、塾代といったように目的によってお金をわけて管理するものです。**

目的別の主な内容は次のとおりです。

○民生費
→老人・障がい者などの福祉の充実、子育て支援、生活保護などに係る経費

○総務費
→庁舎や財産の維持管理、企画、広報、市税の賦課徴収、戸籍住民基本台帳事務などに係る経費

○公債費
→地方債（借金）の返済に係る経費

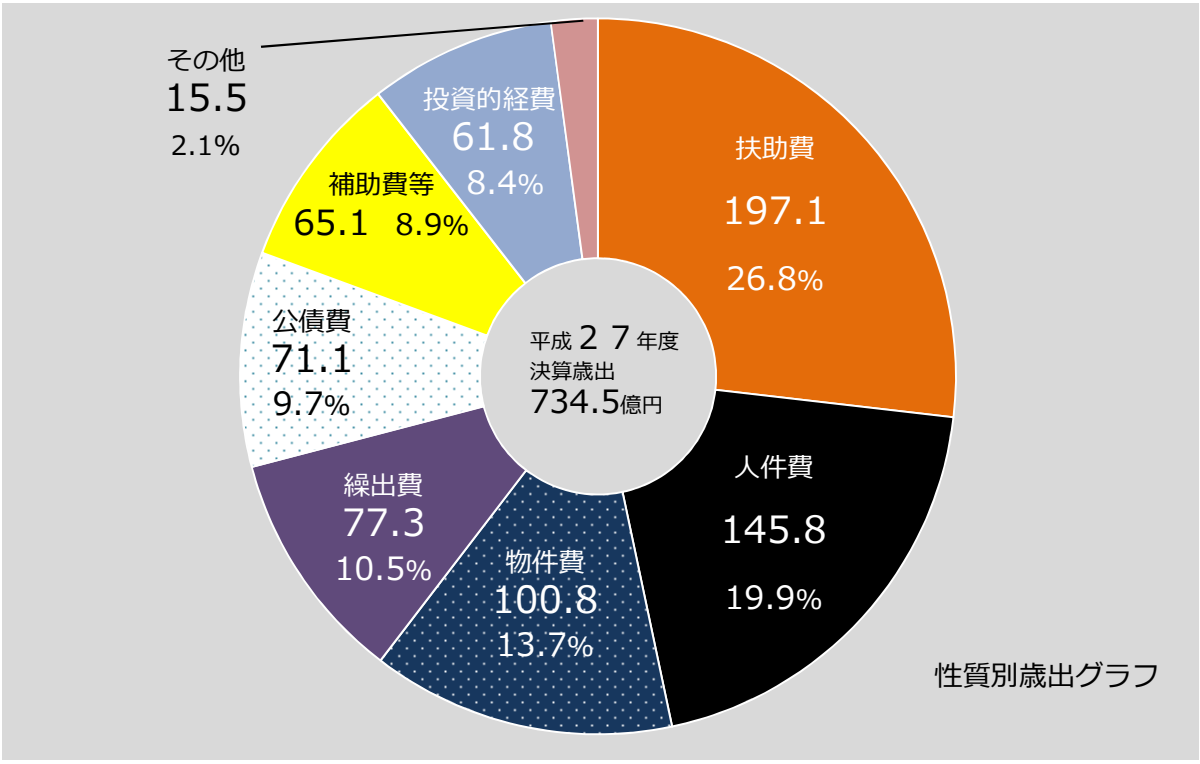
○教育費
→学校教育、社会教育、スポーツ振興などの教育行政に係る経費

○衛生費
→市民の健康の保持増進、生活環境の改善、医療、公衆衛生などに係る経費と、ごみなどの一般廃棄物の収集・処理などに係る経費

○土木費
→道路や公園、河川、市営住宅などの建設、整備や維持管理などに係る経費

## どんなものにどのぐらいお金を使ったの？

単位：億円




次は使ったお金はどんなものにどのぐらいお金を使ったのか解説します。

性質別の主な内容は次のとおりです。

○扶助費
→社会保障制度の一環として市が各種法令に基づいて実施する給付や、市が単独で行っている各種扶助に係る経費。具体的には、生活保護法、児童福祉法、老人福祉法などに基づく給付がこれに当たります。

○人件費
→給与等の経費

○物件費
→光熱水費、消耗品の購入、備品購入費、委託料などの市が支出する消費的な経費の総称

○繰出金
→一般会計から特別会計に支出される費用。

○公債費
→地方債（借金）の返済経費

○補助費等
→市が各種団体などに交付する補助金などの経費。企業会計（水道、病院、下水道）に対する補助金などがここに含まれます。

○投資的経費
→道路、橋りょう、公園、学校、公営住宅の建設等社会資本の整備等に要する経費であり、普通建設事業費、災害復旧事業費及び失業対策事業費から構成されています。

## 使ったお金のグラフから何がわかるの？

目的別や性質別のグラフを見てきましたが、そこからいえることは、福祉関連経費（民生・扶助費）や人件費の支出が多いことです。

特に性質別のうちで人件費と扶助費、公債費は義務的経費と呼ばれ制度的に支出することが義務づけられている経費です。近年、公債費は減少傾向で、人件費はほぼ横ばいですが、扶助費は増加傾向です。義務的経費が増加することは、投資的経費等その他の経費を圧迫することになります。

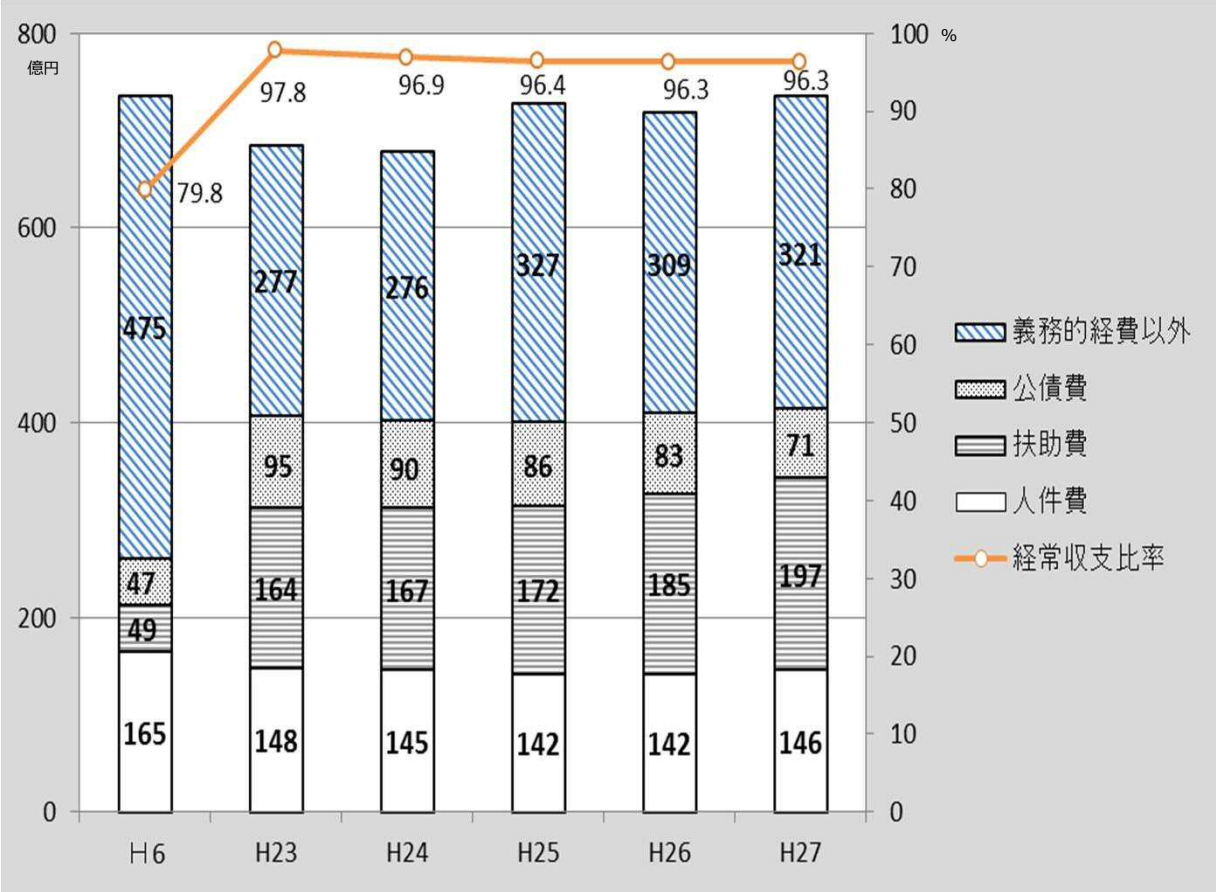
下のグラフは義務的経費の推移です。このグラフの一番左は阪神・淡路大震災前の数値を掲載していますが、扶助費、公債費がこの２０年で大幅に増えていることがわかります。

○経常収支比率

→　市税等の使い道を制限されない経常的な収入に対する人件費、扶助費、公債費など毎年度支出される義務的経費の割合です。この数字が低いほどお金の使い道の自由度が高いといえます。

本市では96.3%と阪神・淡路大震災関連の借金返済や扶助費の増加によって高い経常収支比率となっています。

（全国市町村平均の経常収支比率は91.3%（平成２6年度決算））



## もっと身近な数字にできないの？

市の決算は言葉がむずかしかったり、額も大きすぎて、なかなかイメージし難いと思いますので、ここでは月収42万円（年収約500万円。貯金の取り崩し、ローンの借入などを含む。）の一般家計に置き換えてみます。

### たからづかしの家計簿

| 収入 | | 支出 | |
|---|---|---|---|
| 給与 | 38万円 | 食費（人件費） | 8万円 |
| うち基本給（市税・地方譲与税等） | 23万円 | 医療費・育児費（扶助費） | 11万円 |
| うち諸手当（地方交付税・国県支出金等） | 15万円 | ローンの返済（公債費） | 4万円 |
| 貯金の取崩など（繰入金等） | 1万円 | 光熱水費・通信費（物件費） | 6万円 |
| ローンの借入（市債） | 3万円 | 家の修理・家電購入（投資的経費等） | 4万円 |
| | | 家族への仕送り（特別会計への繰出金等） | 8万円 |
| 合計 | 42万円 | 合計 | 41万円 |
| | | ローン残高（地方債残高） | 487万円 |
| | | 預貯金残高（基金残高） | 71万円 |

### 家計簿を分析してみよう！

・医療費が多いですね。過去の家計簿も調べると年々増加していて、家電購入等を我慢してなんとか医療費を捻出しています。それに家族への仕送りも多いです。

・ローンの返済額が借入額を上回っており、平成２６年度と比べてローン残高は18万円減少しました。 しかし、預貯金残高も9万円減少しました。

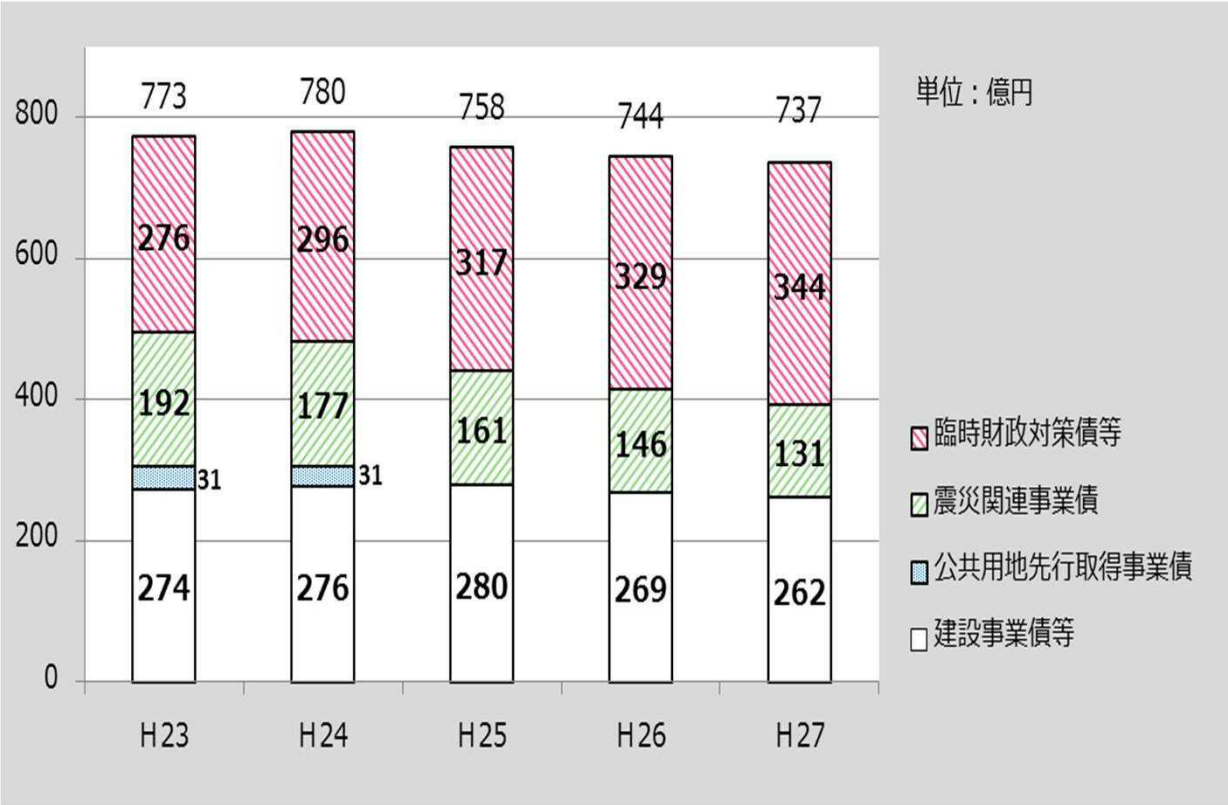
## 借金（地方債）はどのくらいあるの？

まず地方債とは、市が公共施設や道路等を建設する場合、多額の資金が必要となることや、市民負担の世代間の公平性の観点から借金をして事業を行っています。
この借金のことを地方債と呼びます。

地方債残高については近年、投資的経費を抑制している事により徐々に減少していますが、まだ阪神・淡路大震災関連の残高が１３１億と高い割合を占めています。なお臨時財政対策債という地方債が近年増加していますが、これは国からの交付税の代替的な地方債で、後年度に交付税として措置されるもので、純粋な借金としての地方債とは性質が異なります。

下のグラフは地方債残高の推移と内訳です。

＊このグラフは普通会計で決算を見ています。



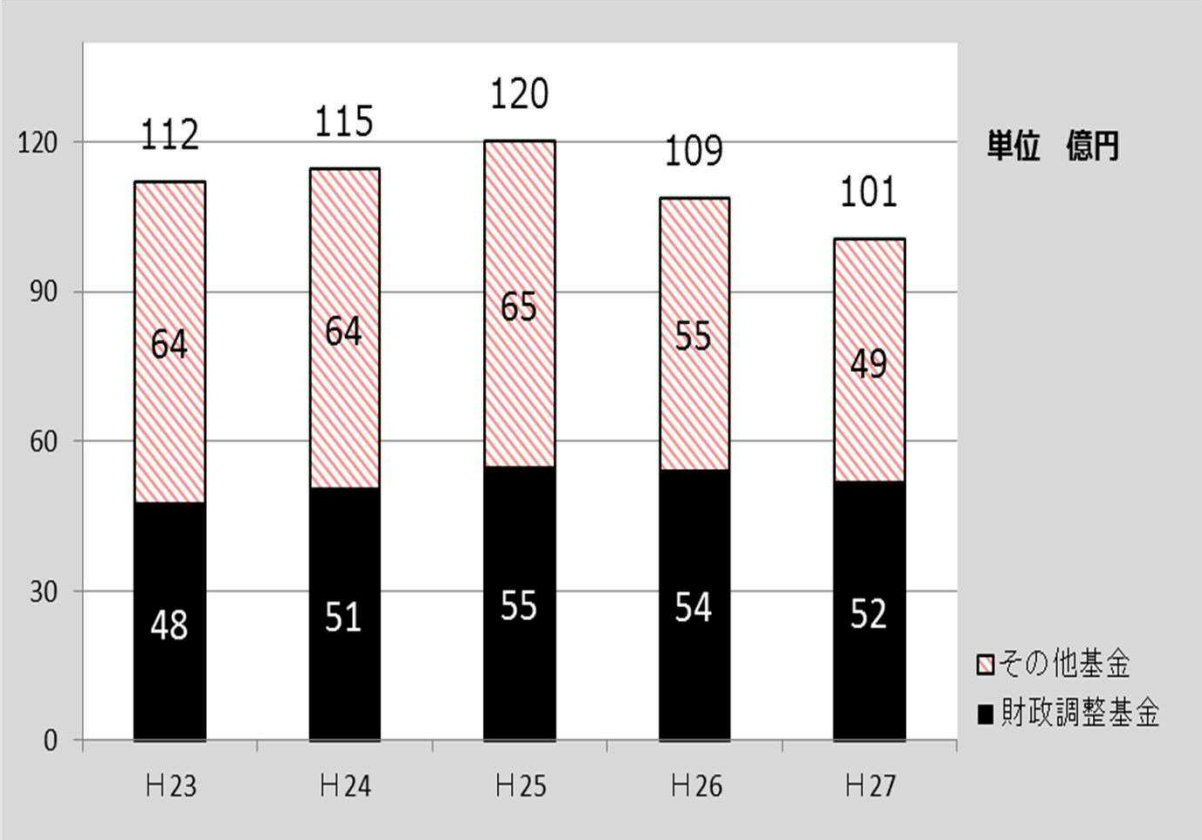
## 貯金（基金）はどのぐらいあるの？

一般家庭でいう預貯金にあたるものを市では基金と呼びますが、その基金の残高は次のグラフのとおりです。近年微増で推移していましたが、平成２６年度、平成２７年度と２年続けて減少しました。

**一般家庭でも教育や旅行等いろいろ貯蓄目的を分けて積み立てることもあるかと思います。**同じように市の基金もお金のやりくりをするための財政調整基金や決まった目的のために積み立てている基金等があります。

下のグラフは基金残高の推移と内訳です。

＊このグラフは普通会計で決算を見ています。



## 特別会計の状況

収入総額　　１５の特別会計の収入総額は、４９１.４億円でした。
支出総額　　１５の特別会計の支出総額は、４９４.２億円でした。
収支差引　　収支差引額は、２.８億円の赤字でした。

国民健康保険事業費で年々医療費などが増加していることにより、１０.９億円の累積赤字となっています。

## 水道事業の状況

収益　　収益は、４４.２億円でした。
費用　　費用は、４２.４億円でした。
純利益　純利益は、１.８億円でした。

平成２６年度は会計基準変更に伴う特別損失の計上などの影響により１７．２億円の純損失でしたが、平成２７年度は黒字となりました。

## 下水道事業の状況

収益　　収益は、４１.６億円でした。
費用　　費用は、４０.０億円でした。
純利益　純利益は、１.６億円でした。

平成２６年度は会計基準変更に伴う特別損失の計上などの影響により２.９億円の純損失でしたが、平成２７年度は黒字となりました。

## 病院事業の状況

収入　　収入は、１０９.６億円でした。
支出　　支出は、１１０.９億円でした。
収支差引　収支差引額は、１.３億円の赤字でした。

平成２６年度は会計基準変更に伴う特別利益の計上などの影響により７.２億円の黒字でしたが、平成２７年度は赤字となりました。

## 市の状況を図るものさしはないの？

**一般家庭でもローンの審査を受ける時に、所得やローン状況等を金融機関にチェックしてもらい融資を受けることになると思います。**

それと同じように市でも一定の基準を満たしていないと新たな借金ができない等の国のチェック機能（健全化４指標）や国からもらえるお金（地方交付税）の基礎となる財政力指数という数字等があります。

### 健全化４指標

国の基準に基づく４つの指標です。一定基準を超えると新たな借金（地方債）を制限されるなど、自治体が破たんしないようにするチェック機能の役割があります。

実質赤字比率・連結実質赤字比率については赤字が発生してないので対象外です。実質公債費比率及び将来負担比率も早期健全化基準以下となっていりますので今のところおおむね良好であるといえます。

ただし、公営企業における資金不足比率については、病院が2.7%となっており、早期健全化基準までは至らないものの持続可能で健全な経営を実現するため、引き続き、収支改善に向けて取り組む必要があります。

単位:%

健全化４指標

| | | 平成２７年度 | 早期健全化基準（イエローカード） | 財政再生基準（レッドカード） |
|---|---|---|---|---|
| 実質赤字比率 | | なし | 11.38 | 20.00 |
| 連結実質赤字比率 | | なし | 16.38 | 30.00 |
| 実質公債費比率 | | 5.3 | 25.0 | 35.0 |
| 将来負担比率 | | 43.0 | 350.0 | |
| 公営企業における資金不足比率 | 水道 | なし | 20.0 | |
| | 下水道 | なし | 20.0 | |
| | 病院 | 2.7 | 20.0 | |

### 財政力指数

この指数が高いほど財政力が高く、１.0を超えた場合には国からの交付税なしに財政運営することができます。ちなみに宝塚市は0.873で本市と同じ施行時特例市(※)の全国平均は0.82です。

※　施行時特例市

特例市制度は、平成１２年４月１日から施行し、平成２７年４月１日に廃止されました。

特例市制度廃止の際、現に特例市である市（施行時特例市）は特例市としての事務を引き続き処理することとなります。

## 結局たからづかしの財政はどうなの？

これまで様々な角度から決算を見てきましたが、「数字はわかったけど、宝塚市はどうなの？」という視点で決算を見てみます。
まず特徴を４つあげると次のとおりです。

- 歳入のうち、約半分が市税である
- 各種指標は、危機的状況ではない
- 市債残高は、減少傾向
- 基金残高は、減少傾向

平成２７年度決算をまとめると、概ね健全な財政状況ですが、財政調整基金を２年連続で取り崩しています。今後も少子高齢化による税収減や、公共施設の維持補修費の増加、増え続ける扶助費など、厳しい財政運営が見込まれます。

また、平成２８年３月作成の財政見通しにおいて、行財政改革の取組を行わなければ、平成２８年度から平成３２年度までの５カ年で合計４０億２，６００万円の財源不足が見込まれました。そのため、財源不足を解消し、健全で持続可能な財政基盤を確立することを目的に、平成２８年度から平成３２年度までを取組期間とする第２次行財政運営アクションプランを平成２８年７月に策定し行財政改革に取り組んでいます。

これからも本市が健全な財政状況であり続けるために、今後も引き続き経費の節減や事業の見直しなどの行財政改革に取り組みます。

# 参考資料　平成２７年度決算でみる主な事業

## Ⅰ　これからの都市経営

### シティプロモーション推進事業

～宝塚市の魅力を広く発信し、定住したいまち・訪れてみたいまちとしてのイメージアップを図るため、宝塚市シティプロモーションサイトを開設しました。～

９０万円

### まち・ひと・しごと創生総合戦略策定事業

～夢・未来 たからづか創生本部を立ち上げ、検討会、有識者会議を開催し、宝塚市人口ビジョン及び 夢・未来 たからづか創生総合戦略を策定しました。～

６３９万円

# Ⅱ　安全･都市基盤

## 地域防災力アップ事業

～災害に備えて、防災アドバイザーの派遣による防災啓発や市民による防災のまちづくりに対する取組を支援しました。また、地域版防災マップ作成補助や一時避難所に必要な防災資器材の購入等、地域防災力の向上に取り組みました。～

１３６万円

## 非常備消防事業

～平成26年8月に発生した台風と集中豪雨の被害をうけて消防団員が水防活動に特化した訓練を実施しました。また、災害現場からの情報伝達手段を強化するためスマートフォンを整備しました。～

１５３万円

# Ⅲ　健康・福祉

## エイジフレンドリーシティ事業

～ＷＨＯ（世界保健機関）が提唱するエイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしいまちづくり）グローバルネットワークのメンバーとして承認されました。～

４６万円

## 第２次たからづか食育推進計画策定事業

～地域の特性を生かした食育に取り組むため、第２次たからづか食育推進計画を策定しました。～

２７４万円

## Ⅳ　教育･子ども･人権

### 終戦７０周年記念事業（非核平和都市推進事業）

～終戦７０年を迎え８月１５日に「平和祈念式典」を開催しました。～　　３３０万円

### 特別支援学校スクールバス更新

～特別支援学校に配置しているスクールバス３台のうち１台を更新しました。～

１，０８０万円

## 学校施設の耐震化

～平成27年度事業の実施により全施設の耐震化が完了しました。～

７億6,329万円

# Ⅴ　環境

## 都市美化推進事業

～宝塚市ぽい捨て及び路上喫煙の防止に関する条例の施行に伴い、
条例内容の啓発と規制区域周知のための標識等を設置しました。～

７０８万円

平成27年8月5日　宝塚駅前で
路上喫煙禁止キャンペーンを実施

# Ⅵ　観光・文化・産業

## 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金を活用した事業の実施

～国の地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地域消費喚起・生活支援型）を活用し商品券などの販売をしました。～

プレミアム付商品券　1億926万円
プレミアム付旅行券　1億円

～国の地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）を活用した事業を実施しました。～

歌劇のＯＧによる舞踏会　１５０万円

**たからづかしの家計簿**　平成２８年（2016年）12月作成
**企画経営部　行財政改革室　財政課**
**電話**0797-77-2022